

刊行にあたって

補綴の専門医として理想的なクラウンを作りたいと思って大学に残り、そこでたくさん
の大切な経験をさせていただいた。そこには夢とは異なる臨床の問題解決という難問が次々
と与えられた現実があった。顎関節症・咬合問題までは専門領域だが、いつの間にか義歯
の難症例や小児歯科の難症例の登場と、治療技術の仮説溢れる世界に出会い、その仮説の
検証作業がさらに視野を広げるきっかけとなった。そして、舌骨の存在と働きを整理する
作業を経て多くの事実が統合できるようになった。統合の鍵は解剖学者・三木成夫氏が示
した直筋系という考え方であった。これがヒトの正常な身体活動を示してくれたのである。

治療技術を発見し、それを普遍化し、統合した法則にすることが毎日の仕事になってい
くなかで、時流に流されない先達が遺したのを見つけることがもう一つの楽しみになっ
ていた。それは治るという事実をどう説明できるかという一言に尽きる。

全部床義歯はありがたい装置である。それは1人の患者に幾つも提供し、その使用感を
確認してもらうことで、理論を確認し高めていくことができるのである。これが小児の育
児の分野では、理論を試して失敗がわかった時点で取り返しがつかないことになる。それ
だけに慎重な対応をしなければならない。本書は義歯の本か発達の本か焦点が定まらない
ようであり、実は同じ「舌骨」という土俵の上で記載したものである。

舌反射と舌口蓋反射の存在で巧みに行われていた口腔機能を、三木氏の示す直筋系を使っ
た呼吸要素と矛盾のないかたちで説明することができた。浅学非才ながら、顎位と顎機能
について、補綴専門医の端くれとして、ここに“ファイナルアンサー”として提示し、歯
科医療における顎位の概念の一部を披瀝した。

——本書を読まれる方々へ

本書では姿勢などのわかりにくいことが多く書かれているが、読者のみなさんにはぜひ
とも図に示したような姿勢を試していただきたい。そしてその姿勢で呼吸や咀嚼を実践し、
理論は理解できなくても事実を体験していただければ本書の目的の半分は達成できる。

本書の制作にあたり、多くの研修会の先生方の助言と資料を使わせていただいた。その
ご縁とご協力に深く感謝を申し上げる。また、いままで育てていただいた日本歯科大学と、
大学の先輩・後輩諸氏なくしてはならない。衷心よりの感謝を申し上げる。さらに、多く
の無歯顎の患者のご協力をいただいた。その愛情あるご指導に深甚なる謝意を表す。

今回発刊の機会を与えていただいたデンタルダイヤモンド社と担当である田村昭一氏の
多大の労苦なくして本書は世に生み出されなかっただろう。深く感謝申し上げます。そして、
天に輝く二つの星にも感謝の気持ちで本書を捧げる。

2022年3月

丸茂義二